

5. 精神および行動の障害 (F20 統合失調症)

文献

Jayaram N, et al. Effect of yoga therapy on plasma oxytocin and facial emotion recognition deficits in patients of schizophrenia. Indian Journal of Psychiatry. 2010 ; 112, 597-601. Pubmed ID:24049210

1. 目的

抗精神病薬を服用中の統合失調症患者において、ヨーガ療法の症状、社会職業的な機能、顔表情認知障害、血漿オキシトシンレベルに及ぼす効果を検討する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

National Institute of Mental Health and Neuro Sciences¹ 施設,バンガロール,インド

4. 参加者

統合失調症と診断され、少なくとも6週間の抗精神病薬を安定して投与されている18歳~45歳の43名

5. 介入

SVYASA ヨーガ療法 統合失調症患者用ヨガプログラム 1ヶ月。

両群の患者は抗精神病薬によって安定した患者。

Arm1:(ヨガ群)15名

Arm2:(待機群)28名

6. 主なアウトカム評価指数

SAPS 統合失調症の陽性症状評価尺度、SANS 統合失調症の陰性症状評価尺度、SOFS 社会的職業的機能スケール、TRENDS 精神神経疾患における感情認識 (4-1.TRENDS accuracy score 精度スコア (TRACS)、4-2.TRENDS over identification score 識別スコア (TOI))。介入前後の2回測定。

7. 主な結果

介入期間後、両群ともに SAPS、SANS 得点は有意に改善したが、ヨガ群のみ SOFS 社会的職業的機能スケール ($P<0.001$)、TRACS 感情認識精度 ($P<0.001$)、TOI 感情認識識別 ($P=0.03$) が改善し、血漿オキシトシンレベル ($P=0.01$) が増加した。

8. 結論

この研究は、抗精神病薬を服用する統合失調症患者に対して追加して行われるヨーガ療法が、症状、社会職業的な機能と顔表情認知を改善するのに有益な役割があることを示した。重要な点はヨガ群で血漿オキシトシンレベルが増加した。

9. 安全性に関する言及

言及なし。

10. ドロップアウト率とドロップアウト群の特徴

ヨガ群のドロップアウトはなかったが、待機群で16人がドロップアウトした。

11. ヨガの詳細

インド・バンガロールのヨガの大学 SVYASA によって開発された統合失調症のための特定のヨーガ療法プログラム。弛緩するための動き、呼吸法、Suryanamaskara 太陽礼拝、座位・仰向き・うつ伏せでのポーズを呼吸法やリラクゼーションテクニックを用いて行う。

12. Abstractor のコメント

統合失調症患者の症状などにヨーガ療法が有意であることがわかったのであるが、これはインドでも珍しいヨガの大学である SVYASA の開発プログラムであることも忘れてはならず、特に統合失調症患者に対するヨガの内容や指導の仕方に注意が必要であることが窺われる。血漿オキシトシンに関しては、統合失調症患者だけでなく同じヨガプログラムを症状のない健康な人に介入した場合の研究についても実施されることを期待する。(オキシトシンは統合失調症症状を改善するという報告もある。)

13. Abstractor の推奨度

統合失調症の薬物療法を行っている患者に追加してヨガを導入することを勧める。理由は症状、社会的機能、表情認知の改善だけでなく、オキシトシンのレベルも増加することがわかったため。

14. Abstractor and Date

松田 千里 岡 孝和 2015.02.15